

# 総合型地域スポーツクラブの加入動機及び継続要因に関する研究

## －八王子市 NPO 法人はちきた SC を事例として－

### A study on the motivation to join the comprehensive community sports club and factors influencing the continuation

#### －The case of HACHIKITA sports club－

1K09B032-0 オドンヒョン

指導教員 主査 原田宗彦 先生 副査 木村和彦 先生

#### 【緒言】

2000 年に発表された文部科学省の「スポーツ振興基本計画」は「生涯スポーツの実現のため、地域スポーツ環境の整備を充実させる」という文言から、2010 年までに①各都道府県において少なくとも 1 つの広域スポーツセンターを育成、②各市町村に総合型地域スポーツクラブを 1 つ以上育成、③成人の週 1 回以上のスポーツ実施率を 50% まで成長、といった具体的な到達目標が示されていた。2006 年にはこの計画に対し、本来の目標達成を向けて、これまでの進捗状況を踏まえ、計画を見直し、後半の 5 年間分の計画として改定を行った。2010 年の時点で総合型地域スポーツクラブの全市区町村の育成率は約 71.4% で目標達成まで至っていない。その後、文部科学省から 2010 年に「スポーツ立国戦略」が策定され、「スポーツ振興基本計画」で表した総合型地域スポーツクラブの課題と大きな変わりはない。2011 年にスポーツ振興法が 50 年ぶりに改正され、「スポーツ基本法」が策定され、また 2012 年「スポーツ基本計画」が策定された。「スポーツ基本計画」は今後の日本のスポーツ政策の具体的な方向性を示すものとして、5 年間を目安として総合かつ計画的に取り組む施策を体系化している。このような背景を基に、2012 年現状は育成率が 78.2% で全国的に成長を続けている。今までの背景を踏まえ、総合型地域スポーツクラブが生涯スポーツを支える施策として国が全面的に支援を行っているが、ほとんど事例研究が多く、総合型地域スポーツクラブを活性化させるためには消費者のニーズを把握することが重要であり、このきっかけとして総合型クラブに通っている会員の加入動機及び継続要因を明らかにする。東京都内で 17 ヶ所の総合型地域スポーツクラブが設立されて、活発な活動している八王子市の総合型地域スポーツクラブを事例として本研究を行う。

#### 【目的】

- (1) 総合型地域スポーツクラブの会員の加入動機及び継続要因を明らかにする。
- (2) 加入動機及び継続要因を規定するための因子分析を行い、因子を規定する。
- (3) 因子基に性別、年齢別、利用歴別にどのような影響があるのかを分析する。

#### 【研究方法】

本研究は、2012 年 11 月 20 日から 30 日まではちきた SC で開設しているプログラムに参加している会員を対象に、授業開始前と授業後にアンケート調査を行った。調査結果、120 部配布、116 部回収した。回収率、有効回答ともに 96.6% だった。

た。分析は先行文献が「フィットネスクラブへの入会動機及び継続要因に関する研究」(徳永ら)の質問項目を用いたため、妥当性を規定する必要があった。そのため、質問項目を SPSS を用いて探索的因子分析を行った結果、加入動機は 4 因子 17 項目、継続要因は 4 因子 14 項目が抽出された。

加入動機は 4 因子ごとの合成得点と性別と t 検定を行い、また、年代別と一元配置分散分析を行い、それぞれの因子に対し有意差があるかを分析した。継続要因も 4 因子ごとの合成得点と性別と t 検定を行い、また、年代別・利用歴と一元配置分散分析を行い、それぞれの因子に対し有意差があるかを分析した。

#### 【結果と考察】

分析結果、加入動機・継続要因とも女性に対して高い数値がみられ、この分析で用いた因子を基に女性向けの広告活動は有効な影響を与えられると考えられる。また、10 代が示している比率が一番高い一方、加入動機・継続要因ともに 10 代が低い数値をみられたため、10 代のニーズを把握し、10 代のニーズに合わせたサービスを提供することが重要と考えられる。例えば、10 代のニーズを把握するためには、単にスポーツを提供するだけでなく、指導者と生徒とのコミュニケーションをとる時間を定期的に持つことで、よりモチベーションを向上させることにつながり、10 代のニーズに満たされることができるという一つの提案が考えられる。また、継続要因の因子と利用歴ごとの有意な差がみられたことから、健康志向の種目に重点を置いて、多様なプログラムを展開することでコミュニケーションを取りやすい環境を調整し、継続的にクラブの活動に参加させることが必要である。

さらに、総合型地域スポーツクラブがより多くの地域住民にスポーツを提供するためには、多様目・多世代・多志向という総合型地域スポーツクラブの特徴を活かし、会員のニーズを把握することが何より重要である。会員のニーズに満たされるよう、誰もが参加できる環境を整えることが、どの総合型地域スポーツクラブにおいても課題ではないかと考えられる。